

1. ガイナレ鳥取の集客力向上について（岩田宜真 / 社会人）

（1）サポーター獲得のための取り組み状況および今後の展開について

岩田宜真議員

私は、ガイナレ鳥取の集客向上策について質問をさせていただきたいと思います。

ガイナレ鳥取のJ2での戦いは、鳥取県の子供たちのあこがれや夢となるだけでなく、鳥取県民が日本全国と渡り合っていこうという、そういった機運を高めてくれる、さらには多くの経済効果も生み出してくれるものであると期待をされております。

そこで、幾つか質問をさせていただきます。

まず、県外サポーターによる経済効果の創出についてです。

毎試合、県外からは多くのサポーターが来鳥されております。より多くのサポーター誘致のため、またはそういったサポーターから鳥取観光のリピーターを生み出すために、現在どのような宣伝やおもてなしの取り組みをされていらっしゃるのでしょうか。お答えをいただきたいと思います。

竹内市長

岩田議員から、ガイナレ鳥取の集客向上策ということで最初の質問をいただきました。見ていただくとわかりますが、今日はガイナレのネクタイをしてきたわけでありまして。私もガイナレを応援している一人だということでありまして、質問についてお答えしたいと思っております。

鳥取市は、ガイナレ鳥取のJリーグ昇格という山陰初のプロスポーツ誕生を契機として、地域への効果を最大限生かすことを目的に、市の関係各課、鳥取県、SC鳥取及び関連企業で構成するガイナレ効果による鳥取力向上チームを組織しております。他のJリーグチームの視察などを通じまして、他のホームタウンに負けない地域の魅力創出に取り組んでいます。

具体的には、以下4点申し上げますが、第1点として、スタジアムグルメやステージイベントなどの充実、これはエンターテインメント性の向上ということでありまして、これが第1点であります。第2点は、アウェイサポーターへの観光PRや物販、ウェブ情報の充実を図っております。これは鳥取の魅力の情報発信に努めているという点であります。第3点目は、中四国ダービーマッチや御当地お祭り対決などの企画を出してありまして、特に縁の深いこうしたチームとの間で一層の交流人口増加が得られるように企画イベントを行っているというのが第3点であります。第4点目は、街なか駐車場の開放、無料シャトルバスの運行、

こういったことによりまして、交通渋滞対策と中心市街地への誘導ということで、町中のにぎわい等につなげているというのがあります。

こうした代表的な4点を上げましたが、こうした取り組みの成果としまして、ホームゲーム21試合、これは天皇杯のチャリティーマッチを含んでいますが、観客動員実績などをもとに試算した効果であります。ホームゲーム開催による鳥取市内への経済波及効果は6億5,000万円と推計をしております。地域の新たな活力源となっているということがあります。

Jリーグ参入の最初のシーズンにつきましては、御存じのように平日開催であったり、シーズン後半、悪天候などの事態もございましたので、観客動員数が目標していた5,000人に至らなかったということでもあります。3,000人台の数字であったわけで、そういった中でもこうした6億5,000万円の経済効果を上げることができた。ことし始まりませ2年目のシーズンでは、新たなホームサポーターの確保とリピーター確保対策に重点的に取り組みまして、鳥取市周辺から西に向けて、県中部、西部の県内サポーターにもより多く足を運んでいただくような条件をつくっていきたいと考えております。

御存じのように、今、ピッチの芝を張りかえたり、24年度の事業としてオーロラビジョンの整備といったことを予定しておりますので、そうしたことも新たな魅力として加わると考えております。これを含めて、総合的な取り組みにより、より多くの観客動員数を確保して、大きな経済効果、それもスタジアムあるいはその周辺だけではなくて、町中での経済効果を上げていきたいと考えております。

(2) ガイナーレサポーターや市民に期待する役割について

岩田宜真議員

ありがとうございました。

では、重ねて質問させていただきます。

ガイナーレ鳥取の観客のうち、地元鳥取県内からの集客をふやすために取り組むべき課題としてどのようなことが考えられていますでしょうか。これにつきましては、とりぎんバードスタジアム及び周辺地域のハード、ソフトの両面の観点からお答えをいただきたいと思えます。

あわせて、それらの課題をクリアするために、鳥取市及び株式会社SC鳥取がそれぞれどのような役割で取り組んでいかれるのか、さらにサポーターですとか鳥取市民はどんな

ことができるのか、この辺を教えてくださいたいと思います。よろしくお願いします。

中川教育長

岩田宜真議員からの質問にお答えします。

観客数をふやす課題とか施策とか、あるいはガイナレサポーターや市民に期待する役割ということでございますが、まず、ガイナレ鳥取のホームゲームでの集客をふやす上での第1の課題は、強いガイナレ鳥取が見られる試合の魅力アップをすることだと考えております。本市では、まず、Jリーグにふさわしいエキサイティングな試合を披露できるよう、ホームゲームの舞台となりますとりぎんバードスタジアムの改修を進めておるところでございます。今、市長答弁でも触れられましたけども、今年度、ピッチの芝生をリニューアルの真っ最中ございまして、来シーズンに間に合わせるようにしております。また、来年度中にはオーロラビジョンの整備も予定しております。また、ガイナレ鳥取の新たな練習拠点として活用していただきます若葉台スポーツセンターも平成25年度の開設を目指して整備をしておるところでございます。こうしたことで国内最高峰レベルの選手がその能力を最大限に発揮でき、ゴールの感動や勝利の喜びを観客の皆様感じていただけるものと確信しております。

2つ目の課題は、ガイナレ鳥取のホームゲームを単なるサッカーの試合開催にとどめないということでございます。これは本日御出席の多くの議員の皆様も何度かスタジアムに足を運ばれておりますので、その雰囲気はよく御存じだと思いますけども、昨シーズンのホームゲームでは、熱狂的なサポーターが醸し出すあのにぎやかな、迫力ある雰囲気に加えまして、スタジアムグルメやステージイベントなど、日常を離れた祝祭、お祭りムードが大変盛り上がりました。来るシーズンにもエンターテインメント性のさらなる充実を図りまして、ハード、ソフトの複合的な取り組みによりまして、スタジアムを一層魅力ある空間として、観客の皆様の満足度が向上することで、集客力のアップにつなげていきたいと考えております。

サポーターや市民の皆様が期待する役割としてでございますが、呼びかけたいことは、まずともに歩もうということでございます。スタジアムに足を運んでいただいて観戦していただければ、これはいいことですけれども、家庭や地域の話題に取り上げられたり、県内外の皆さんにガイナレを通じてふるさと鳥取の魅力を伝えていただくなど、今の自分にできることを一つずつ積み重ねていただくことがガイナレ鳥取を支える大きな力になるものと考えております。

ガイナレ鳥取が活躍することで、市民が元気になり、郷土に誇りと夢が持てるものと考えております。さらに、鳥取の知名度が向上し、経済が活性化します。こうしたクラブと市民とがお互いにウインウインの関係になれるよう、ともに歩もうと考えております。以上でございます。

(3) 今後の鳥取市にもたらず期待について

岩田宜真議員

ありがとうございました。

では、最後になります。今後、ガイナレ鳥取の活躍が鳥取にとってどのような効果を生み出していくことに期待をされていらっしゃるのでしょうか。これについては根拠ですとか確信ですとか、そういったものがない話でも構いませんので、ぜひとも夢を語っていただきたいと思います。よろしくお願いします。

竹内市長

根拠、確信のない話という注釈もありましたが、かなりの根拠を持ってお話しできると思いますが、御存じのように、ガイナレ鳥取は、JFLで10年戦って、後半では5位を2回経験したり、最後はトップになってJ2に上がったわけです。多くのサポーターに大きな夢をずっと与え続けてくれているのがこのガイナレ鳥取だと思います。そして今、塚野社長さんを初め、1年目を経験した後、新たな第2年目のシーズンのスタートを切ろうというところで、「強小四年 信頼」というテーマを掲げています。まず強小ということが我々に本当にじんときるところがあるわけで、小さいけれども強いというのですか、私はもう一歩進んで、小さいのがゆえに強いのだということも言えるようなチームになってもらうことを願っていますが、要は、人口最少県である鳥取県ならばこそ言える強小というテーマを掲げて、今やJ2の世界に入り、Jリーグの中でJ1を目指して歩みを始めているということでもあります。

鳥取市にとりまして、J2に入る一つの大きな契機として、ガイナレ効果による鳥取力向上とっておりますが、先ほども触れましたように、経済効果が非常に期待できるということもそうですが、情報発信をできる、これを機会に鳥取のことをいろいろ知っていただく一つの大きな契機となっているということと、それから、鳥取に住む我々、それから鳥取から離れた鳥取人にとっての誇りと自信につながっているということを私は確信をいたしております。そういう中で、我々、まず地元からの応援の輪が広がり、チームが強くなり、そし

てJ2、J1と歩む中で、本当に地域の大きな新たなシンボルとして、ガイナレ鳥取がなっていくと思います。そしてガイナレの考え方は、Jリーグ百年構想というものがもとになっておりますので、地域との関係を築いていくということで、地域のスポーツなり青少年の成長なりとともに歩もうという考え方でありますので、単に一スポーツチーム、それもプロのスポーツチームというだけではなくて、地域に対して大きな地域貢献をするという主体としても活躍をいただけるものと思います。

Jリーグに入ってまだ1年が済んだところであります。我々も先ほどハード面の整備、また情報発信などソフト面のこれからの取り組み、こうしたところで我々サポーターサイドも磨きをかけて、チームそのものの力の成長とあわせて、先ほどともに歩もうという教育長の呼びかけがありましたけれども、まさにチームと地域がともに歩むという形の中で、経済効果だけではなくて、夢と誇り、自信、そうしたものを生み出す大きな原動力になると考えております。そういったことが岩田議員の一番質問されたかった点ではないかと思ひますし、きつこういうことを関係の皆さんがともに共有することで、本当に大きな効果がここで生じてくるものと思ひます。引き続きガイナレに対して地域の中で、そして若い人たちが力を合わせて、その推進力となる、応援のサポーターの中心となっていくということをぜひとも期待をしたいと思ひます。よろしくお願ひします。

岩田宜真議員

こちらの質問に丁寧にお答えいただきましてありがとうございます。今、市長も言っていたいただきましたが、ガイナレ鳥取は日本全国と渡り合い、小さいながらもより強く、より多くの笑顔を生み出していく、まさに鳥取の夢そのものだと思います。経済不振とか大規模災害、我々には将来の不安などもたくさんあります。ですが、特にこれからの未来を担っていく子供たちには、夢を抱くということをあきらめず、夢を語るということをおそれない、そんなふうになっていただきたいと思ひます。そのためにも、今こそ我々大人が大いに夢を語り、一緒に夢を追いかけていければと思ひます。

以上です。ありがとうございました。